

初めての植物観察覚書・春編 H.31年4月28日開催

ちょっと肌寒い春の日、なんと46名もの方々にご参加いただき、大賑わいの観察会になりました。小学生～保育所のお子さんも多かったので、この日は平地をゆっくり見ることにしました。果たして何が見られるかしらと思いましたが、植え込みの中には予想外にたくさんの植物が生えていてとても面白い観察会になりました。

まず最初は、いつも観察するハナゾノツクバネウツギです。この植物は、花も面白いですが葉のつき方がはっきりしていてとても良い材料になります。いつも対生か互生かといったクイズを出すのですが、時々輪生になるものがあるってひっかけ問題になるところが面白いなと思います。それから、足元を見ると何やら黄色い花が……。オッタチカタバミです。変わった名前なので何度も尋ねられました。続いてはマツバウンラン。本当にきれいな花で、ルーペの使い方を説明しながら観察してみると、長い距(きょ)が見られましたね。次はチチコグサ、中級クラスの小川(英)さんから、ハハコグサとの違いなどを解説いただきました。ちょうどチチコグサモドキも生えていて、よい比較になりましたね。その傍らではスズメノエンドウが花盛り。今度は中級クラスの田中さんから解説いただきました。オニタビラコも花盛り。これを使ってキク科の頭状花序の話をしました。一つの花に見えるけれども、実際はたくさんの花の集まりでした。一枚の花弁の先のギザギザがいくつあるかなどクイズをしましたね。大きなオニノゲシもタンポポのなかま、生えている毛についてお話をしました。ちょっと移動して、いつものクスノキへ。板羽さんからクスノキのダニ部屋の話などをしていただきました。ダニ部屋はもともとクスノキが作っている小部屋で、この小部屋にボディガードとしてダニを食べる肉食ダニを住まわせているのでしたね。クスノキの太い枝にはノキシノブがついていてこれもしばし観察。植え込みの中のイヌムギでは、イネ科の重要な特徴、小穂の構造について小川さんが解説くださいました。



すごい賑わい



ハナゾノツクバネウツギ



オッタチカタバミ



マツバウンラン



チチコグサモドキ



スズメノエンドウ



オニタビラコ 左：一つの花



クスノキのダニ部屋

さて、再び足元を見ますと、タイルの間にいろいろな植物が見えます。まずはツメクサ。小川（彰）さんが詳しい解説をしてくださいました。葉が対生しているという解説は的を得ていましたね。隣の目地ではアワゴケが元気に生育中。みなさん、こんなに小さいんだと驚きながらの観察でした。隣の植え込みでは、ムシクサが花盛り。しかし、目立たない花なのでルーペでよく観察しました。近くの植え込みの上に大きく伸びあがっているのは、ヤエムグラです。茎や果実に先の曲がった毛がたくさん生えていてくつつくのでしたね。植込みには、オオムラサキというツツジが植えられていて、こちらも花盛り。この大きなオオムラサキの花を使って、萼、花弁、雄蕊、雌蕊の観察をしました。“雄蕊が何本だ？”と尋ねましたね。ほとんどの方は10本でした。最後にハコベの仲間を観察しました。茎の片側にだけ毛があって、節のところで互い違いになるのでした。覚えていますか？こうしてこの日は、噴水の周りだけで2時間じっくり観察をしました。



ムラサキカタバミ



ツメクサ



アワゴケ



ムシクサ



ヤエムグラ



オオムラサキ



クイズをしながら観察



ハコベのなかま

写真撮影：豊谷千幸さん

この覚書では、初めての植物観察で見られた植物について、備忘録的に記録に止めています。プリント版は、博物館三階のレファレンスルーム内でも配布しています。また、同じものをホームページ <http://museum.tokushima-ec.ed.jp/ibaraki/index.html> 上からダウンロードいただけます。なお、この行事では、中級クラス植物観察会の皆さんに解説その他ご協力を頂いています。ここに記してお礼申し上げます。

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖（いばらぎやすし） ibaragi_yasushi_1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務です。年未年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川上席学芸員がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。